
時間の支配者

鋼野タケシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

時間の支配者

【Nコード】

N97160

【作者名】

鋼野タケシ

【あらすじ】

時間の支配者をご存じだろうか。私は知っている。それは……

【時間の支配者】

時間の支配者をご存じだろうか。

私は知っている。

それは時計だ。

時間は人の支配者だから、時計は全人類の支配者とも言える。

私たちは時計によって管理され、支配されているのだ。そうでなければ、人生を細切れにして割り振ったりは誰もしないだろう。

その時計が壊れてしまったから、私は困り果てた。

「なにこの程度の故障ならすぐ直りますよ。中のネジを代えれば良いんですあ。待っててください五分もありや直しますよ」

せっかちな時計屋は私の金時計をすぐに直してくれた。

ありがたい。これで待ち合わせの時間に遅刻せずに済む。

私はいつも待ち合わせの五分前には集合するようにしている。待つのも、待たされるのも嫌いだからだ。

ところが、五分経っても十分経っても約束の相手は現れない。二十分が過ぎて、三十分が過ぎた。今、一時間が過ぎようとしている。いよいよ腹が立って帰ろうかと思い始めたころ、ようやく相手が姿を現わした。

「こんなにも待たせるやつがあるか。私は約束の五分前には待っていた」

「なに、キミはずいぶんと気短だな。たしかに約束には遅れた。とは言っても、たったの一分と数秒ではないか」

彼は私に時計を見せた。妙なことに、彼の時計ではたしかに約束の時間から一分しか経っていない。

私は自分の時計を見た。約束の時間から一時間と十分が経過して

いる。

これはまいった。せつかちな時計屋に修理を頼んだものだから、時計までせつかちになっているに違いない。

人の個性であれば許される程度のことではあるが、せつかちな時計など持ち歩けたものではない。せかせかと針が進み二十四時間を二十四分で巡られてはたまらない。それでは私の睡眠時間は一日にたったの七分になってしまう。労働時間が九分で済むのはありがたい話ではあるが。

それで私は、次はノンキな時計屋に修理を依頼することにした。

「おや、この程度の故障なら、すぐに直りますよ。中の、ネジを変えれば、良いでしょう。預からせてください。一週間もあれば、直しますよ」

ノンキな時計屋は、時間を掛けて私の時計を修理してくれた。

早ければ腕が良いというものでもない。

今度こそ直った時計を持って、私は待ち合わせの場所を訪れた。時間はきっちり五分前。私は待つのも、待たされるのも嫌いだからだ。

ところが、私が約束の場所に訪れると相手はカンカンに怒っていた。

「キミ、ずいぶんと酷いじゃないか。人との約束に二時間も遅れるとはどういう見だ」

「なにをバカな。まだ約束の時間までは五分の猶予がある」

彼は私に時計を見せた。妙なことに、彼の時計ではたしかに約束の時間から二時間も経過している。

私は自分の時計を見た。約束の時間まではまだ五分ある。

これはまいった。ノンキな時計屋に修理を頼んだものだから、時計までノンキになっているに違いない。

ノンキな時計など持ち歩けたものではない。考えても見て欲しい。九時間キツチリ働いて時計を見たら、ノンキな時計はまだ一時間し

か進んでいないとする。すると私はその九倍も働かなくっちゃならない。一日に八十一時間も働かされたら、流石の私もまいってしまふ。しかも時計はノンキなものだから、途中で昼寝くらいはしてもおかしくない。

それで私は、次は普通の時計屋に修理を依頼することにした。

ところが、この普通の時計屋というものがなかなか見付からない。知っている限りの時計屋を回ったものの、時計はいつこうに正しい時間を指してはくれない。進む速度は速くなったり、遅くなったり、時々止まったり戻ったりもした。そのたびに私は待ち合わせに遅刻し、何時間も待ちぼうけをくらい、一日に七分しか眠らず、一日に八十一時間も働いた。

いよいよくたびれてしまった私は最高の解決策を思い付いた。がしゃん、と木づちで思い切り叩いたら、金時計は齒車を飛ばして砕け散った。

なに、はじめからこうしておけば良かった。

時間の支配者がいなくなったおかげで、私の一日はようやく二十四時間に戻った。

一日九時間キツチリ働いて、ぐっすりと七時間眠って、約束の時間にもぴったりと待ち合わせができた。

キミたちの時計は壊れていないだろうか。

もしも一日があまりに長かったり、とても早く過ぎてしまふようであれば、もう木づちで叩き壊してしまえば良い。

（後書き）

昔みたいなセリフ回しがしてみたかった。
そういうお話です。

ところで、似たような話を昔読んだ気がします。
気がするんですが思い出せない。

本当にどこかで読んだのか、
自分で考えたのが頭の片隅にあって読んだ気になっているのか。
記憶力が悪いとそういうことも思い出せないから困ります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9716o/>

時間の支配者

2010年11月17日21時46分発行